

# おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）  
東京で大学・研究室生活を経てリターン  
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる  
心理学・新潟学等講師、経営学修士(MBA)、新潟郷土史研究会会員  
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）  
「おもしろ えちご塾」（恒文社）  
「郷土とことわざ」「ことわざを楽しく学ぼう、社会・文化・人生」（人間の科学新社・共著）  
「明治大学政経論叢 2016年度（新潟美人）」  
（明治大学政治経済研究所）等

## 「新潟ふつつあいさつことば」

過日のことです。ある人（学生）から、アルバイト先（飲食関係）で、外出先から帰った店長に「お疲れさまでした」と言ったところ、「オレが疲れて見えるというのか？失礼なこと言うもんじゃない！ご苦労さまと言え！苦労してんだぞオレ様は！」と怒られたという話を聞きました。

うなだれなさんな、学生くん。尊敬・丁寧・謙譲に、最近「バイト敬語」なる怪しげな語もありますから、ニホンゴはめんどくせいです。 「お疲れさま」は目上に使わないという説もありますが、慣習で使用しているようで違和感のない、むしろねぎらいのことばのように定着しているようです（職場によっては異なります）。

本県が地理的・歴史的背景からも「方言の宝庫である」ということは、今までお伝えしてきましたが、日常のあいさつことばの多様さも新潟のことばの特色であるのです。

新潟弁慣用句ともいえる「なじらね？」にはじまり、「はやいね〜」（朝）、「いっしょけんめらね」（昼の農作業等）、「おばんです」（夜）等々、朝な夕なに多様なあいさつことばが県内地域で見られます。親しい家を訪問する際は「いたけ〜」、近所で出会った出かける格好しているしょ（人）には「どこいきなさる？」、帰宅するしょには「あがりらかね？」等々、時間や場所、相手との関係性でそれぞれTPOに応じて使い分けたその土地のあいさつことばには、豊かなことばの世界とやさしさが息づいています。

「どこいきなさる？」は、「気をつけて、いきなせや」。「あがりらかね？」には、「お疲れさんらね」のねぎらいの意を込めた折々の気持ちが込められています。他人の動向を詮索するといった下世話な意味など毛頭ありません。他所から来た人やこと

ばを額面通りに受け止める人には誤解されることもあります。話者の表情やことばの響きを感じとれば、決して悪意などない、他者への思いやりが伝わってくることばです。

厳しい自然と地形の中で、自然相手に生業（なりわい）を営み生産してきた我が新潟では、地域の中で円滑に人間関係を進めていくための知恵が、この多様なあいさつことばであったといえましょう。

先の共通語「お疲れさま」は、県内では「あがりらかね？」「疲れたろ？」といったところでしょう。ことばはその意味や使用場面が時代とともに変わるものですが、このあいさつことばは、表現が標準化されたとしてもその意味は変わらず人と人をつなぎます。くだんの店長のように「ご苦労さま」を上司に対するねぎらいのことばとするしょも最近出現しているようですが、雇用主や上司、先輩、依頼主以外、たとえば後輩から言われたら、これまた「あきやきや」となるはず。これが新潟のことばなら、年長者には「おお大儀なさいましたね」、同僚や後輩、親しい人には「難儀したね、おおご苦労らったね」となり、言う人・聞く人ココロほっこりというものです。

「おはようさん」の一言がその日の始まりを快適にしてくれるように、あいさつことばはその地域と人の宝物。ということで、今回は、もう、しもた。では、ごめんなせ〜！

※なお、タイトルふつつとは、いっぺことよりも多いたくさんという意です。

平成31年度に本県開催の国民文化祭のキャッチコピーは「文化ふつつ新潟！」です！みんなであつつ盛上げましょう！

